

平成 25 年 3 月 29 日

各 位

会 社 名 株式会社デ・ウエスタン・セラピュテクス研究所
代表者名 代表取締役社長 日高 有一
(コード番号：4576)
問合せ先 取締役総務管理部長 上窪 彩子
T E L 052-218-8785

当社開発品「H-1129」に関するライセンス契約締結のお知らせ

本日、当社とわかもと製薬株式会社（本社：東京、社長：神谷 信行、以下「わかもと製薬」）は、当社が創製した開発品である新規緑内障治療剤「H-1129」の日本を対象とする独占的開発権・販売権を、わかもと製薬に対し付与するライセンス契約（以下「本契約」）を締結いたしましたので、お知らせいたします。

「H-1129」は、プロテインキナーゼ^(注1)阻害剤^(注2)を中心とする当社化合物ライブラリー^(注3)のリード化合物を基にして最適化された、緑内障を適応用途とする開発品です。当社独自技術であるドラッグ・ウエスタン法^(注4)により、標的タンパク質^(注5)は熱ショックタンパク質^(注6)Hsp90であることが特定されており、また、細胞内での化合物と標的タンパク質の結合様式等の分子薬理学的研究が完了しております。当社開発研究所でのこれら研究及び非臨床試験の成果として、本開発品が緑内障治療薬として新規作用メカニズムを有し、強い眼圧下降作用と神経保護作用を有することが確認されております。

なお、平成 24 年 2 月 15 日に公表いたしました「新規緑内障治療剤に関する特許成立のお知らせ」のとおり、「H-1129」の物質及び用途特許は、当社を権利者として平成 24 年 2 月に成立しております。

本契約の主な内容は、以下のとおりです。

- ・ 当社は、「H-1129」の緑内障および高眼圧症を適応用途とする、日本を対象とした開発権及び販売権を、わかもと製薬に独占的に付与する。
- ・ 「H-1129」は、わかもと製薬の費用負担により、非臨床試験及び臨床試験等の開発が進められ、当社は本開発を支援する。
- ・ 当社は、契約締結時に 50 百万円を契約一時金としてわかもと製薬より受領する。また、その後も開発ステージの進捗に応じて生じるマイルストーン及び、「H-1129」上市后、販売高に応じたロイヤリティを受領する。

なお、上記のとおり、当社は本契約締結により契約一時金を受領する予定であり、平成 25 年 2 月 7 日公表の通期業績予想を修正致します。詳細は、本日発表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

以 上

「わかもと製薬」

“患者さまにとって目に優しい目薬の提供”をテーマに医療用眼科用剤の開発及び販売に実績を有し、防腐剤フリーを実現させた点眼ボトルの開発など、患者さまの立場で“クオリティ・オブ・ビジョン（見ることの質）”にこだわった眼科用剤の開発を志向しております。

用語解説

（注１）プロテインキナーゼ

ATP(アデノシン三リン酸と言われ、体内で作られる高エネルギー物質)等の生体のエネルギーの元となる低分子物質等のタンパク質分子にリン酸基を付加する(リン酸化)酵素です。タンパク質をリン酸化するキナーゼをプロテインキナーゼと呼び、タンパク質以外のものをリン酸化するものをキナーゼと言います。

（注２）阻害剤

生体内の様々な酵素分子に結合して、その酵素の活性を低下若しくは消失させる物質を指します。医薬品としては、この酵素の活性を低下若しくは消失させることにより、病気の治療薬として利用しております。

（注３）化合物ライブラリー

化合物ライブラリーとは、当社が長年にわたり蓄積してきた新薬候補化合物のタネの基となる化合物群です。これらの化合物の一つ一つは特徴的な性質を有しており、これらを基として、基礎研究や新薬候補化合物発見に役立てます。

（注４）ドラッグ・ウエスタン法

薬物の標的タンパク質の同定に使うバイオテクノロジーを応用した手法で、当社が発明し特許を保有しております。複雑なタンパク質精製プロセスを介せず、薬物が結合する少量のタンパク質を検出し、その遺伝子を同定することにより標的タンパク質を見出すことができる方法です。

（注５）標的タンパク質

薬物が作用する相手のタンパク質を標的タンパク質と呼びます。生体はタンパク質が生体内で相互に作用することによって機能しておりますが、多くの病気はタンパク質の異常な働きによって引き起こされております。これらの病気には標的となるタンパク質が必ずあると考えられております。

（注６）熱ショックタンパク質

細胞が熱等のストレス条件下にさらされた際に発現が上昇して細胞を保護するタンパク質の一群であり、Hsp90などと、その分子量によりそれぞれの分子の名前がつけられています。